



10月6日より九州国立博物館で放映

沖ノ島・神宝館で8K撮影

〜NHKエンタープライズ制作〜

今秋十月に開館十周年を迎える九州国立博物館(以下九国博)の記念事業として、七月二十七〜八月三日までの間、境内の神宝館及び沖ノ島で最先端の8K動画の撮影が実施され、今月六日より同館シアタールームで一般公開される。

今回の撮影は九国博開館時に制作された沖ノ島映像をリニューアルするためのもので、十年前は静止画での8K撮影が限界であったが、撮影機器の進歩により動画での8K撮影が可能となり、より臨場感溢れる映像が撮影された。



宗 像



平成ノ大造営

時満ちて
道ひらく

余の滴

九月から十月にかけて福岡のあちこちで放生会が行われる。放生会は捕獲した魚や鳥獣を放生して戒める元來仏教から来た宗教儀式であり、海、山の幸に収穫を感謝する祭りでもある▼日本では神仏習合によって神社でも行われるようになった。神社では大分県の宇佐神宮の八幡信仰が起源とされ、石清水八幡宮、笠崎八幡宮が有名である。全国の八幡社で行われている▼当社の秋季大祭(田島放生会)は十月一日〜三日まで行われる。宇佐神宮と石清水八幡宮の儀式の例に倣ったとされ、「応安神事次第」によれば、八月十三日から十五日まで三日間行われる大神事であった。この神事は戦国時代に一時中断するが大室宗像氏貞のときに再興され、その後何度も中絶を繰り返して、現在の大祭に受け継がれている。時が変わっても放生会の心の原点は生きとし生けるものに感謝をする神事であることに他ならない▼今、地球の温暖化の影響による異常気象や生態系へ影響を受け、世界の食料不足が心配されている。一方、我が国では、食べ残しや売れ残りの食べ物が、毎日大量に捨てられている。日本は世界有数の食糧輸入国である。飽食の時代と言われている昨今、今一度食物の大切さを考え直さなければならない。(杉)

神具・装束・授与品



装束店
〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る
フリーダイヤル 0120-075-980

授与品店
〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23
フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技

総合建築業

株式会社 弘江組

〒811-3406 福岡県宗像市稲元4丁目-20 電話(0940)32-2567



前回の実績を踏まえ、今回もNHKエンタープライズが制作することとなり、神宝館での撮影は三日間臨時休館して実施され、初日は機材搬入や照明等のセッティングが行われた。

翌朝当大社と九国博物館の学芸員五名が、約二時間かけて銅鏡八十一面のうち、

大型鏡を中心に状態の良好なもの三十面を収蔵庫より運び出し撮影が進められた。撮影三日目は金製指輪、金銅製龍頭、金銅製香炉状品、金銅製高機、奈良三彩が一堂に並べられ撮影された。

これまでの神宝撮影は基本一点づつで行われており、国宝に指定される神宝をこ

れほど大量に一堂に撮影するのは、神社としても初めての試みであったが、想像をはるかに上回る神々しさを放つ映像となった。撮影スタッフも神宝の迫力に息を飲む状況で、照明やカメラ位置をミリ単位で調整するなど、慎重を期してほぼ丸一日かけて撮影に臨んだ。

三日間の神宝撮影後は、沖ノ島での

撮影が五日間にわたって実施され、二十九日は機材搬入、三十日に安全祈願祭が斎行され、スタッフ総勢十一名を中心に、九国博、福岡県関係者も視察する中、ピーク時は総勢十五名が撮影に関わった。

沖津宮や祭祀遺跡、神職の禊や日々の祭祀、海や鳥、花などの自然も撮影された。撮影期間中、通常勤務者でもあまり出くわさない海亀が港内に現れるということもあった。

最終日の八月三日にはヘリコプターによる空撮が行われ、沖ノ島の鳥影に夕日が姿を見せるというドラマチックなシーンも撮影された。

八月末の試写では迫力ある大量の神宝や、沖ノ島の大自然、珍客の海亀も登場していた。

九月中旬からはテロップやナレーションを神社広報課と詰め、十月六日に一般公開される見込み。放映スケジュールはまだ確定していないようだが、年内は九国博内のシアタールームで毎日放映されるとのこと。他では目にするこのできない、神々しい沖ノ島と宗像神に捧げられた芸術的な神宝を是非一度ご覧下さい。



第二回 氏子総代総会

九月十七日、氏子総代総会が置鮎会長以下一〇三名出席の下、清明殿にて開催された。



会議では置鮎会長を議長に秋季大祭を中心とした議案の説明が各担当者より行われ、全て原案通りに承認され、秋季大祭の氏子奉幣使は、旧玄海町岬地区より

選定、高向敏治氏(岬地区中原)にご奉仕頂くことが承認された。奉幣使は祭典前日の一日に神社に斎泊の上、二日祭にご奉仕いただく。

秋季大祭斎行にあたり、氏子の皆様には三日間に亘り多々ご協力頂いている。宗像に秋を告げる一連の祭事に神社も氏子の皆様と一丸となり本年度の秋季大祭を迎えたい。

沖津宮神迎え神事

秋季大祭に先立ち去る九月三日、沖津宮の御神璽を中津宮にお迎えする沖津宮神迎え神事が斎行された。

神事前日の九月二日、宮司以下神職四名が大島へ渡り、午後五時から中津宮にて渡航安全祈願祭が翌日奉仕する沖・中両宮奉賛会、沖・中両宮翼賛会参列のもと斎行し参籠。翌三日午前七時「国家鎮護」と書かれた大幟、両側に紅白の「御長手」と呼ばれる吹き流し、船首に波切御幣を立てた御座船となる友栄丸に神職と沖・中両宮奉賛会会長沖西敏明会長をはじめとする役員、また沖・中両宮



候は曇天と天候が心配される中の出港となったが沖ノ島到着後、禊が終わるころには晴天となった。

ただちに沖津宮本殿にて出御祭を斎行。御神璽を奉持し先導が祓いをしながら参道を下り御座船に奉

午後一時過ぎ島民が迎えるなか大島に到着。駐在の先導により中津宮まで陸上神幸。同一時半入御祭が斎行され、滞りなく御神璽が中津宮へ納められ十月一日を待つばかりとなった。



宮司事務引継ぎ式



九月十六日、午前十一時四十五分より当大社勅使館にて宮司事務引継ぎ式が行われた。これは、高向前宮司から葦津新宮司への宮司交代に伴い行われるもので、福岡県神社庁より西高辻信良庁長、波多野盾夫・竹間宗磨副庁長、望月司郎参事、

平川琢朗主事他関係者が参集立会の下、社殿の御鍵、公印、財産目録等の確認がなされ、新宮司に引き渡された。引続き、本殿にて関係者一同が正式参拝をして滞り無く終了した。高向前宮司は、「平成ノ大造営」を着手、辺津宮本拜殿の御修復を終え無事遷座祭を斎行。大造営も道半ばであるも後進に後事を託し、この六月に勇退。

本殿祭祀を研究

古来の祭祀を学び、現状祭祀を見直す

去る八月二十四日、國學院大學神道文化学部教授・神社本庁祭祀講師の茂木貞純氏をお迎えし、辺津宮本殿に於ける「恒例祭祀式検討・研究会」が行われた。

これは昨年の辺津宮本殿・拝殿の修復を機に大祭時の拝殿腰板の取り外しが出来なくなる等、従前祭祀の見直しを図る必要が生じた為であり、併せて本殿の構造上、古来の祭典がどのように執行されていたのかを考察・研究することで恒例祭祀式の確立を目的としたものである。

各祭場における恒例祭の現状を儀註や神社史等で確認頂き、直接祭場での動きを見て頂くと、これまで持っていた疑問の数々が職員より質問され、懇切にお答えと助言を頂いた。研究会は日没まで続き終了後は茂木先生を囲み懇親会を開催。此の場においても



も時間内にお伺いできなかつた質問等が続き、祭祀に関する話題に終始した。本研究会で頂いた助言と指導を元に本年秋季大祭より順次改定していく予定である。

総理夫人 安倍昭恵氏参拝

八月二十二日、安倍総理のご夫人である安倍昭恵氏が辺津宮を参拝された。

到着された安倍昭恵氏は辺津宮を葦津宮司の案内の下、正式参拝され高宮祭場、神宝館を拝観、短い滞在時間ではあつたが、沖ノ島における国家祭祀や由緒に熱心に聞き入っていた。

また、この日メイトム宗像で行われていた、宗像国際育成プロゲ



国際交流、震災復興活動等様々な社会活動をされる氏の今後益々のご活躍をお祈り申し上げます。

ラムにて特別に挨拶頂き、宗像の中学生等に東北の

防潮堤建設問題などの話をし、「未来の日本、世界を作っていくのはあなた達です。頑張ってください」と一人一人と握手をされていた。

第36回 東西神社人親善野球琴平大会

神宮の連覇を阻み、太宰府・宗像チーム優勝

全国の神社人が野球を通して親睦を深める親善野球大会が八月十七〜十九日の三日間、金刀比羅宮(香川県仲多度郡琴平町)の当番で開催され、選手・関係者約一三〇人が参加、当大社は太宰府天満宮との合同チーム総勢二十二名で熱戦を繰り広げ見事に優勝を勝ち取った。

快晴の試合当日、午前中は猛暑、当チームは前日の抽選により二回戦から登場、東京チームとの対戦となった。一進一退の攻防が続いたがなんとか終盤逆転し辛勝、

決勝へと進んだ。決勝の相手は連覇中の神宮チーム、自力の差か終始神宮チームのペースで試合は進み三ポイントのハイエンドのまま、最終七回の裏の攻撃。先頭バッターが四球で出塁するとヒットと四球で満塁、タイムリーで同点に追いつくと、最後はファーストゴロの間にランナーが生還しサヨナラ勝ち、劇的な勝利を収め、神宮チームの三連覇を阻んでの優勝を手にした。

決勝へと進んだ。決勝の相手は連覇中の神宮チーム、自力の差か終始神宮チームのペースで試合は進み三ポイントのハイエンドのまま、最終七回の裏の攻撃。先頭バッターが四球で出塁するとヒットと四球で満塁、タイムリーで同点に追いつくと、最後はファーストゴロの間にランナーが生還しサヨナラ勝ち、劇的な勝利を収め、神宮チームの三連覇を阻んでの優勝を手にした。



優勝カップを手に笑顔の役員選手一同



メイトム宗像にて中学生等と

九州式内社顕彰会 『杵岐の国』巡拝記

当大社が事務局を務める九州式内社顕彰会は八月二十日より二十二日にかけて長崎県杵岐市を訪れ、十四社を巡拝した。

式内社とは、平安時代の法令集「延喜式」の神名帳に記されている神社をいい、九州には九十社ほど存在し、杵岐・対馬だけでその半数以上を占めている。杵岐は、南北十七キロ、東西十四キロ



の島であるが

島内には式内社を含め約百五十社の神社があり、小さな祠等も含めると三百社

あまりの神社があるといわれ「神々の島」とも言える。

歴史は古く、『古事記』の伊邪那岐命・伊邪那美命に



よる国生み神話では、「伊伎島」として、また中国の歴史書『魏志倭人伝』には「一支国」として登場する。奈良

時代には、杵岐一島で一国と定められるなど、本土と大陸との間に位置するという地理的要素から、古代、重要な拠点とされてきた。大陸との交易で栄える一方、様々な

外敵からの侵略も受け、最も被害を受けたのは元による侵略「文永・弘安の役」で、その際は住人のほとんどが殺戮されたと言われる。

巡拝会では、式内社と共に「三韓征伐」「文永・弘安の役」に関係する神社などにも参拝させていただいたが他にも貴重な体験をした。国指定重要無形文化財に指定されている『杵岐神楽』を国片主神社で奉納させていただいた。この神楽は、神職のみによって継承されてきた

神楽で約七百年の歴史があり、杵岐では神事には欠かせないものであるという。今回、地元の神職六名で奉仕いただいたが、演目の中にはアクロバティックな動作も

あり巡拝会参加者から驚嘆の声も上がった。今回、杵岐の歴史・文化・食と堪能させていただいたが、独自の色があり、様々な意味で奥深い島であった。

福岡県氏子青年会協議会研修旅行 伊勢神宮・京都伏見稻荷大社を参拝

去る、九月五・六日の両日、伊勢神宮参拝を目的とした、福岡県氏子青年協議会の研修旅行が行われ、当大社氏子青年会からも田村会長以下五名が参加した。



を正式参拝し、千本鳥居など境内を散策、夕食の懇親会を京都府氏子青年連合会員の方もご出席頂き親交を深めた。翌朝、一同は京都から伊勢へ向かった。先ず、二見興玉神社を自由参拝し、午後に神宮神職案内のもと、内宮にて御垣内参拝の栄を賜り、次に神楽殿にて御神楽を奉納した。

この研修旅行は、同協議会田中茂廣会長(柳川・日吉神社)と宮地嶽神社氏子青年会にて企画して頂き、実施される事となった。五日、田中会長以下十六名は、京都の伏見稻荷大社

参加者一同、福岡県氏子青年協議会による、念願の神宮参拝の感動を胸に伊勢路を後にした。

時満ちて道ひらく

造営日記 ⑱

沖津宮遙拝所(大島)復旧工事

九月十日に文部科学技官が復旧工事中の沖津宮遙拝所の現地指導に来られた。沖ノ島を拝す沖津宮遙拝所は玄界灘の北風が吹きさらす厳しい立地の為、これまでも修繕や建替えを繰り返している。



■屋根の解体が進む遙拝所



■文化庁の現地指導

当日は、設計監理者より建築物の損傷状況や修復内容について説明がなされた後、同行されていた福岡県・宗像市の担当者と共に意見交換を行った。

主基地方風俗舞保存会研修旅行

長崎県壱岐を参拝

平成二十七年度の主基地方風俗舞保存会研修旅行が花田会長を始め会員6名参加のもと、八月三十日から一泊二日で開催され長崎県壱岐市へと向かった。

高速艇にて博多を出発した一行は、正午前に壱岐に到着、一支国博物館・



原の辻一支国王都復元公園を見学し、古代から続く壱岐の歴史に触れた。その後、「電力王」・「電気の鬼」と呼ばれた松永安左エ門の記念館や猿岩を観光し、湯ノ本温泉に宿泊、和やかに親睦を深め、夜半、原の辻一支国王都復元公園にて、壱岐の神職により伝承されている壱岐神楽を見学し、風俗舞を伝承する会員一同は感動した様子であった。

二日目は、箱崎八幡神社

にて正式参拝後、引き続き男岳神社を参拝、壱岐の方々の信仰の深さに関心頻りであった。その後、麦焼酎発祥の地であり今も伝統的な麦焼酎を造る酒蔵を見学し、再び高速艇にのり帰路に着いた。

今回の研修では、長く伝承が続く壱岐神楽を拝観し、伝承を続けることの大切さを再確認し、自分達が継承する風俗舞を続ける事を強く意識した有意義なものとなった。

(続)

決の寄物

303

いしただし



蒼空を一機、白い飛行雲をひき、重く鈍い音を発してB29が飛んでいる。時折り太陽の光りを受けて機体がきらりとする。今も忘れないB29の姿である。大戦末期大編隊を組んで爆弾の雨を降らし「悪魔の飛行機」として日本人の恐怖の的であった。

福岡大空襲の時(六五二号)には福岡市天神から平尾の浄水場まで兄達と逃げたが、家に戻る時には、いたるところに焼夷弾の殻や不発弾が転がっていた。平成二十七年六



月に福岡市赤レンガ館で福岡空襲展があったので見学してきた。空襲を受けた福岡市の焼跡の写真もあった。焼け野原になってどこかあまりよく分からなかった。この時投下された焼夷弾、集束焼夷弾が展示されて見覚えがあった。焼夷弾の説明には「米軍が実

際の日本の町並みを再現し、爆撃実験を行って開発した爆弾で、昭和二十年六月十九日の福岡大空襲の際に、中央区に投下された不発弾であったのを民家の倉庫に保管されていた。頭部が衝撃でくぼみ、ナパームが漏れて固化して、内部に附着している」と説明してあった。空襲の焼跡でプロペラ状のものも目にしたが大型容

器にプロペラをつけ、プロペラが回転してネジがはずれ、容器が開き焼夷弾が分散するものである。まさに焼夷弾は木造建築に効果があり、重要な軍事施設は破壊力のある爆弾が使われ、ヨーロッパでは石造りの建物が多く爆弾が使われている。空襲で高射砲や戦闘機で撃墜されたB29の残骸や落下傘で降下した米軍兵は公衆の面前にさらされたり虐待を受けた。大名町の近くで数人の米兵が虚無僧の被る深網笠を被らせられ、数珠繋ぎされて、憲兵に誘導されて歩いたのを見たことがある。顔は笠で見えな



た。大町町の近くで数人の米兵が虚無僧の被る深網笠を被らせられ、数珠繋ぎされて、憲兵に誘導されて歩いたのを見たことがある。顔は笠で見えな

間から白い細い腕が見え、側で見ていた大人が「B29の捕虜バイ」と教えてくれた。これが悪魔の飛行機の「鬼畜」だと思った。戦争が終わって、戦争犯罪人の摘発がはじまった。友達の家は平屋の質素な建物で、門扉はいつも閉じられていた。友人が言うには、B29の捕虜を「生体解剖」した人の家と

言っていた。その頃学校では墜落したB29の捕虜を、福岡市の油山山中で、空手や日本刀で殺害したことも友達から聞いた。恐ろしいことをしたもんだと思った。生きていた者を解剖した九州大学医学部で行われた生体解剖事件は分県竹田市上空で撃墜されたB29搭乗員十二人が、パラシュートで脱出、三人が死亡、機長は東京に護送、八人が五月から六月にかけて四回にわたって解剖全員死亡という事件であった。戦争は人間の良心も失わせ狂気となる。これも小学校の頃だったが、B29の防弾ガラスの破片といって、これを机の上で擦ると、甘い匂いがすると行って、小さな破片をポケットに入れて、甘い匂いにつとりした。

第45回
西日本菊花大会
のご案内

毎年、11月1日から開催される菊花展。九州各県、山口の菊花愛好家から出品された様々な菊の花約3000鉢が境内に展示され、西日本一の規模を誇ります。

◆会期 平成27年 11月2日(月)～22日(日)
◆時間 終日
◆会場 宗像大社境内
◆拝観料 無料

第六五〇回

宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日×切



宗像市 日の里 秋吉 嘉範
祇園祭山鉾巡り日田の街暑き盆地にさわ風吹きぬ

評 日田の祇園祭の山鉾はかつての繁栄をうかがわせ、昼夜ともに見応えのあるものらしい。しかし盛夏、盆地の日田の暑さは想像以上、一陣の風にほっとした作者だろう。(祇園祭山鉾がめぐる真夏日を日田の街吹く川からの風)などとしては如何。

北九州市 八幡西区 豊田ミツ子
過ぎゆきし悲喜こもごもをたぐりつつ夫の祥月二十三回忌終ゆ

評 法事を執り行ないつつ、御主人の生前の思い出と、亡くなられた後の二十二年間の寂しさ、一緒に分かち合いたかった喜び等に思いを巡らす作者。無事に法事を終えた安堵感が歌に滲む。上の句に具体的な思い出を一つ入れてを詠む詠み方も次に試してみても。

宗像市 多禮 早川 祥三
島々に北斗の雫海の道神の湊にいつく島姫

評 (北斗の水汲み)の歌。島のシルエットの上を北斗七星の柄杓が水をかけるように見られるさまが詠まれている。言葉がぶつぶつ切れ、少し分かり難いので、整理してみた。(島々に柄杓で滴落とすごと北斗星光る神湊に)。姫神の歌は別に一首作りましょう。

福津市 若木台 山崎 公俊
雨の日の拝殿の床湿りつつ蜻蛉二匹を憩ませてをり

評 梅雨の光景が詠まれ、安らぎの感じられる良い歌。床が擬人化されているが、拝殿の床が湿るといふのは雨が降り込むなどの目に見える光景があったのだろうか、もしそうなら、それを詠み込めば更に説得力が出ただろう。

宗像市 池田 森 龍子
姑の遺品の中より出でぬ吾宛の手紙は文字がすべてを語る

評 お姑さんの遺した手紙には何が書いてあったのか、たぶん世話をしてきた作者への感謝や息子さんであるご主人といつまでも仲良くして欲しいなどだろう。「文字がすべてを語る」だが、文字がどうだったかを読者は知りたいのだ、文字の描写がぜひ欲しい。

宗像市 日の里 大和美由紀
ことごとく西瓜を割りて食べ散らすわが畑にも白鼻心来る

評 この歌で宗像にハクビシンが居ることを初めて知った。収穫が近いところまで育った西瓜を割られた悔しさを思うが、この歌の作者は悔しさよりも白鼻心が来ることに驚いたのかもしれない。結句を(へ来て)とすると、うちの畑にも来た、と驚きが出る。

宗像市 田久 巻 桔梗
(高齡)は(これ)からの意さ、玄関に蓄あまたの白桔梗を活く

評 作者らしいウィットに富んだ楽しい歌。(高齡)→(これ)→(これ)→(これ)、成程と唸った。下の句は「これから」だからと咲き続ける桔梗を取り合わせたのだろうが、念の押し過ぎでくどい感じが否めない。(蓄あまた)を省く工夫を。

◆ 選者詠

台風のそれたる夜の満月に空腹おぼゆ生きるは食ぶる
島国のくにびとわれら潮と汐あさとゆふとで字をつかひ分く

第六三三回

俳句作品集

- 宗像市 多禮 早川 祥三
ワラスボの線香花火指焦がす
- 宗像市 武丸 白土 凌一
夏風に風鈴揺て涼しきや

編集後記

郷里、茨城での大災害、只テレビで状況を見守る事しか出来なかった今回の関東・東北豪雨での鬼怒川氾濫堤防決壊▼鬼怒川は関東平野を北から南へ、栃木から茨城へと流れる一級河川で、平素は川幅も広く穏やか、子供の頃は川へ遊びに行った記憶もある。鬼怒川温泉や夏季の鮎漁等の観光、栃木県都・宇都宮市などの水源となり市民の生活や流域の農業や工業にも広く利用されている▼しかし、まさかの氾濫：与えてくれる恵みも数多い自然であるが、改めて抗つことの出来ない自然への畏怖・畏敬の念を抱かずには入れなかつた。「自然との共存共栄」いま一度考えなければ：▼一日も早い復興をお祈り申し上げます。(鈴)

10月祭事暦

- 1~3日 秋季大祭
- 15日 月次祭
午前10時~ 高宮祭、第二宮・第三宮祭
午前11時~ 総社祭、豊栄舞奉奏
- 17日 表千家献茶祭
午前11時~
- [大島・中津宮]
27日 沖・中両宮秋季大祭
午前9時~ 沖津宮大祭
午前11時~ 中津宮大祭

発行所 宗像大社社務所・宗像会

住所 〒八一一一三五〇五 福岡県宗像市田島三三三
電話 (〇九四〇)六二一三三(代)
発行人 葦津幹之
編集人 大塚宗延・鈴木祥裕
制作・印刷 ゼネラルアサヒ

毎月1日発行 定価1年送料共 1,000円